令和４年度　不登校の理解と支援講座

# 不登校の現状と支援の視点

島根県教育庁教育指導課
子ども安全支援室

# ４　今後の取組について Ⅰ
# （未然防止の取組）

## （１）不登校の数を「継続数」と「新規数」とで考える

# 不登校が増えるのは･･･不登校を減らすには･･･

## 不登校の増減について考える

国立教育政策研究所　滝　充氏　H30現職教員研修資料より

### 不登校児童生徒が増えるのは・・・

（×）　不登校になった児童生徒が、学校に登校するようにならないから。

（○）　休みがちだったり、まったく休んでいなかったりした児童生徒が、３０日以上休むようになったから。

### 不登校児童生徒を減らすには・・・

（△）　不登校になった児童生徒が、学校に登校するようになる。

（○）　休みがちだったり、まったく休んでいなかったりした児童生徒を、３０日以上休まないようにする。

# 「継続数」・「新規数」という考え方

## 不登校の数を二つに分けて把握する

「継続数」と「新規数」を区別してその推移をたどると異なる状況が見えてくる。

**継続数**

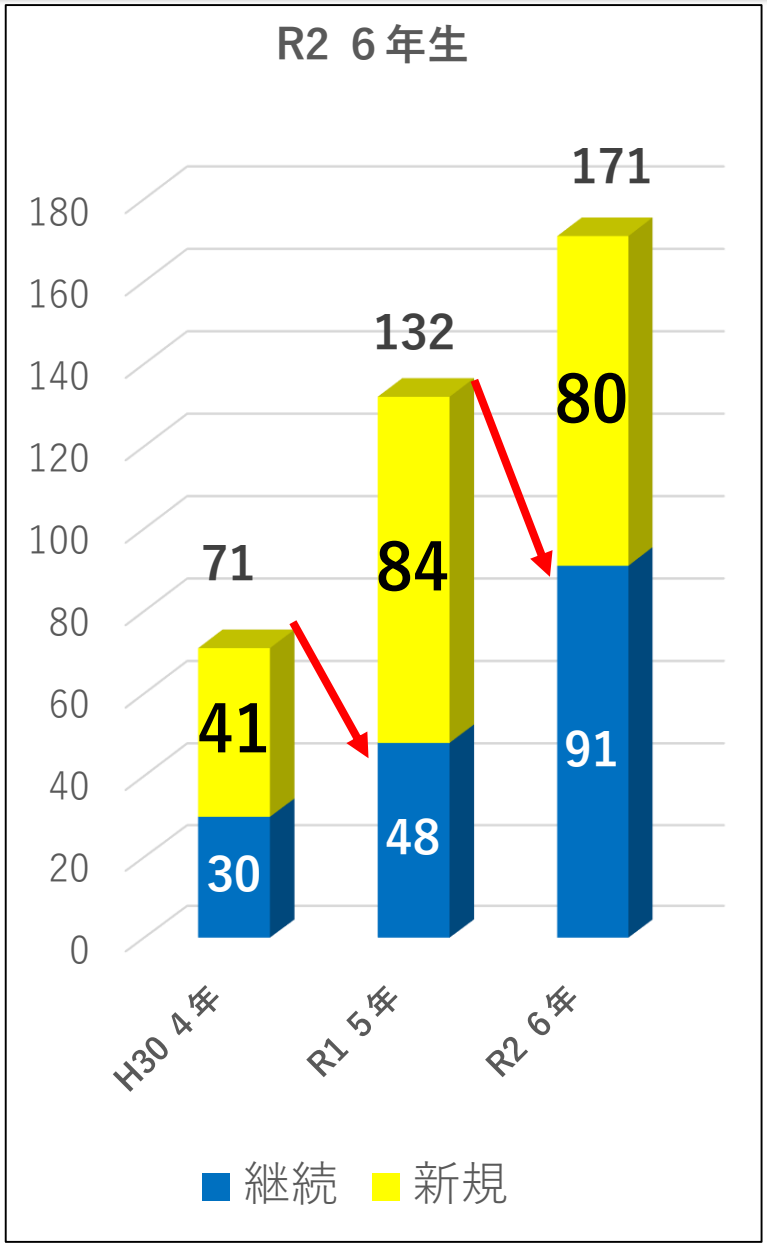
前年度も不登校であった児童生徒の数

**新規数**

前年度は不登校ではなかった児童生徒の数

生徒指導リーフ22：国立教育政策研究所

# 「継続数」・「新規数」から見えるもの




R2年度に6年生になった児童は、4年生（H30年度）から5年生（R1年度）になるときに継続数が23名減少している。つまり23名の不登校が解消している。

しかし、新たに84名が不登校（新規数）になったため、結果的に不登校児童数は132名となり、前年度より増加している。

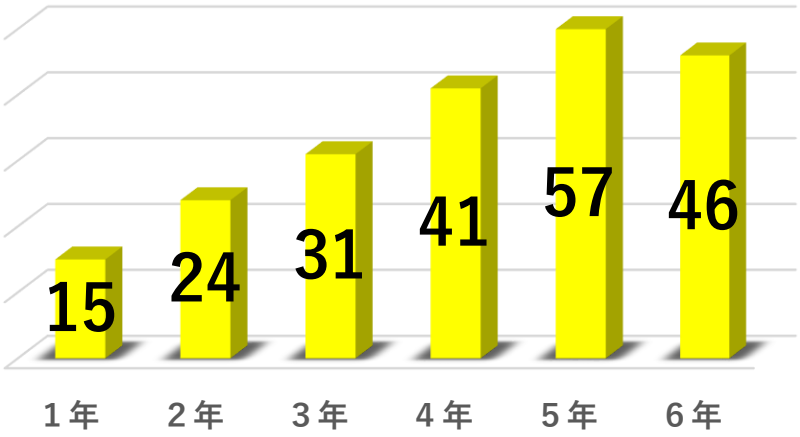
同様に、6年生になるときに41名が解消しているが、新たに80名が不登校になることで、結果的に91名から171名に増加している。

**全学年において同様の現象が見られる**

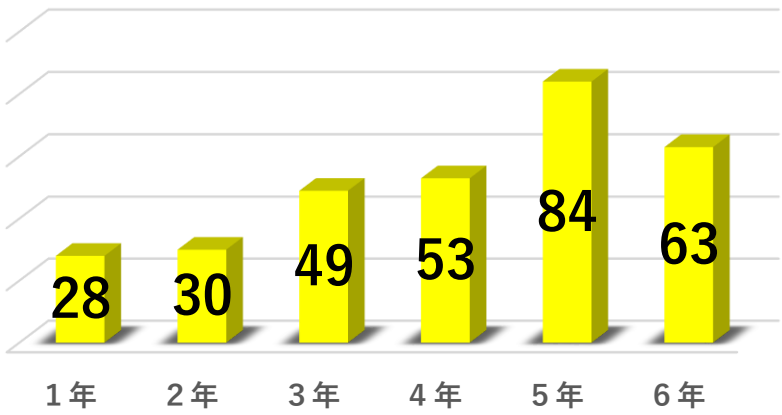
**継続数が減少するのはこれまでの各校での不登校対応の取組の成果**

# 学年別の新規数の状況（島根県　小学校）

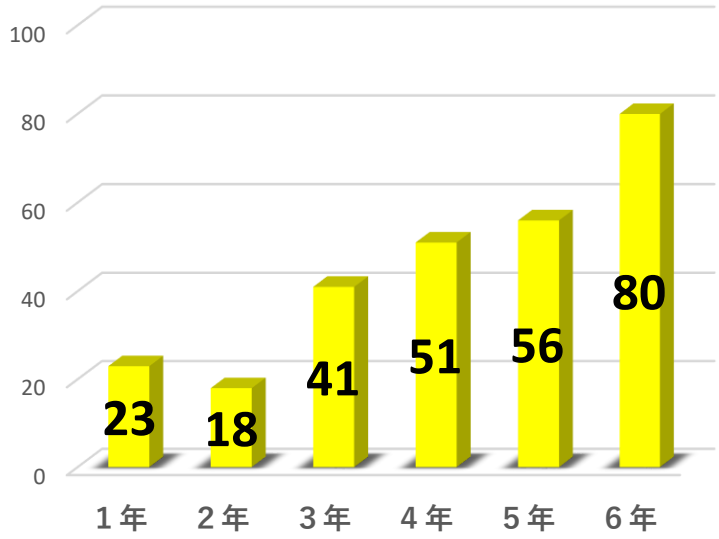
H30　新規不登校児童数




R1　新規不登校児童生徒数




R２　新規不登校児童生徒数

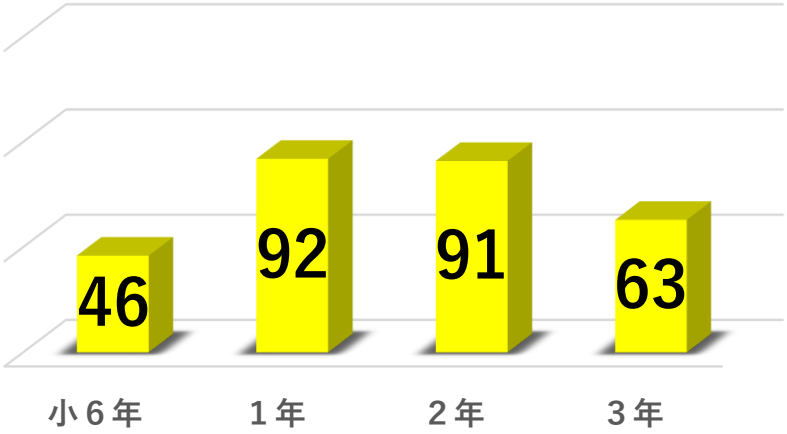



「新規数」を学年別に見る

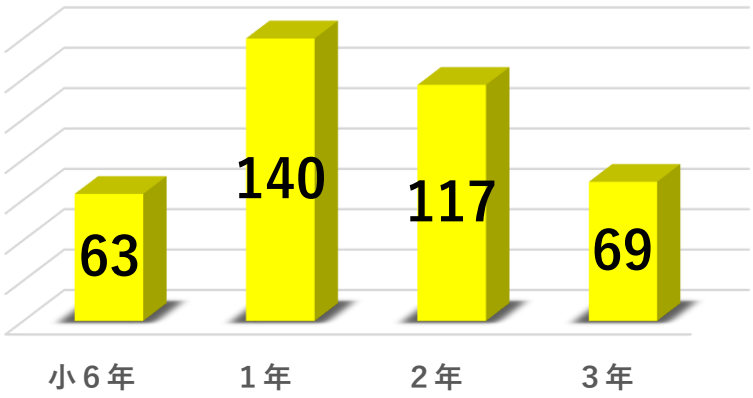
・H30、R1、R2年度いずれも、学年が上がるにつれて、新規数は増加する傾向がある。

# 学年別の新規数の状況（島根県　中学校）

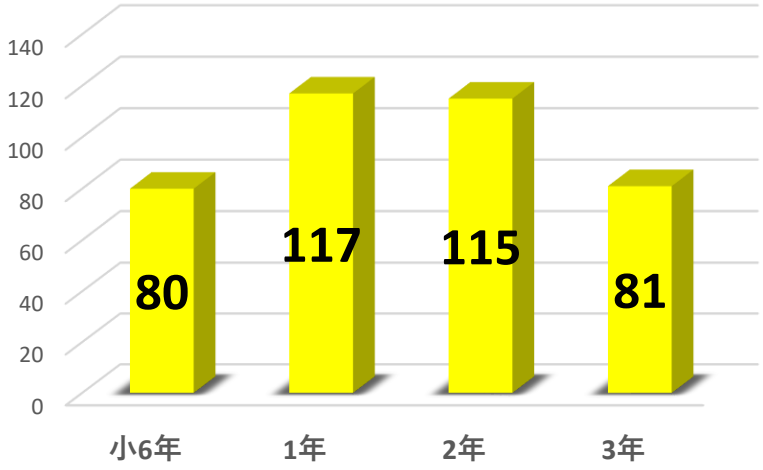
H30年度　新規不登校児童生徒数




R1　新規不登校児童生徒数




R2　新規不登校児童生徒数




「新規数」を学年別に見る

・小学校6年時に比べて、中学校1年生になると新規数が急増している。

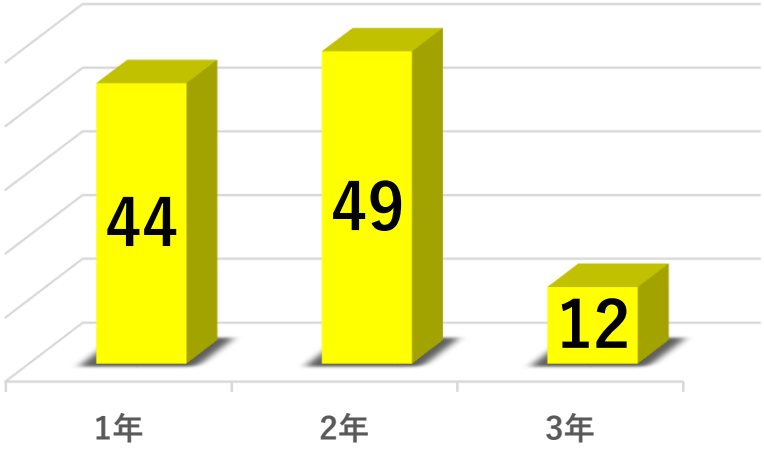
・H30、R1、R2年度いずれも、1年生が最多で、学年が上がるにつれて、新規数は減少している。

中学校１年生での新規不登校者には、小学校４～６年の間に、長期欠席（病欠等も含む）の経験がある者が５割程度含まれる。

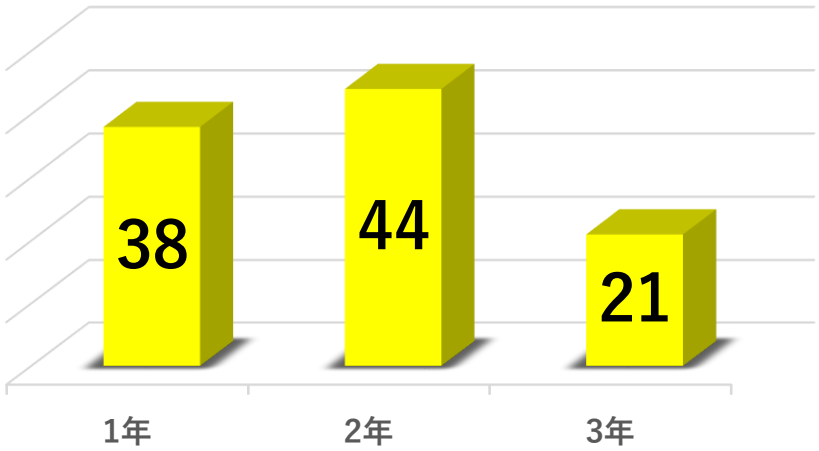
国立教育政策研究所調査より

# 学年別の新規数の状況（高等学校全日制）

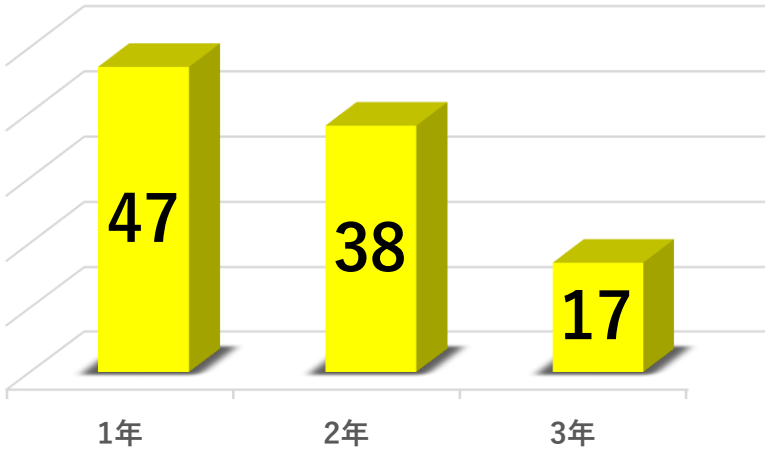
H30年度　新規不登校生徒数




R1年度　新規不登校生徒数




H2年度　新規不登校生徒数




「新規数」を学年別に見る

・H30、R1、R2年度いずれも、1年生、2年生で不登校の新規数が多くみられる。

・3年生になると、それまでの1、2年生に比べて、新規数は減少している。

# 新規数が減少するのはなぜ？

**小学校**

６年生になると新規数が落ち着く傾向
（Ｈ29～Ｒ１）

**中学校・高等学校**

学年が上がるにつれて新規数が減少する傾向

**なぜ？**

**これまでの取組にヒントがあるのでは？**

- 最高学年、学校のリーダーとしての責任感が高まる。
- 活躍の機会が増える。頼りにされる。
- 認められる場がある。自己有用感が高まる。
- 修学旅行などの楽しい行事に参加したい。
- 進学や就職などの進路の見通しがもてるようになる。

**どの学年においても、学年に応じてこのヒントを生かしてみてはどうでしょう。**

# 社会性の基礎となる「自己有用感」

## 「自己有用感」とは

**自分に対する他者からの評価が中心**

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」は、自己と他者（集団や社会）との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価

行事に取り組む、学習に取り組む際などに、子ども自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが「認める」という行為では重要になります。それが、「自己有用感」を育むのです。

# ４　今後の取組について Ⅰ
# （未然防止の取組）

## （２）未然防止のために取り組むこと

# 不登校・長期欠席対応として

**1 未然防止（健全育成）**
「魅力ある学校づくり」

休み始め

**2 初期対応**
早期発見・早期対応

30日以上の欠席

**3 自立支援**
事後の対応・ケア

# 未然防止

不登校という事象に対して学校がまず取り組むべきことは、**全ての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じ、学校を休みたいと思わせないような日々の学校生活の充実です。**どの児童生徒も落ち着ける場所をつくること（**居場所づくり**）、全ての児童生徒が活躍できる場面をつくること（**絆づくりのための場づくり**）が鍵になります。

# あらゆる教育活動で「居場所づくり」「絆づくり」

## あらゆる教育活動で

全ての児童生徒の

**「心の居場所」**

となる学校

そのために

教職員が、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場を提供する。

【安全安心な学校づくり】

全ての児童生徒の

**「絆づくりの場」**

となる学校

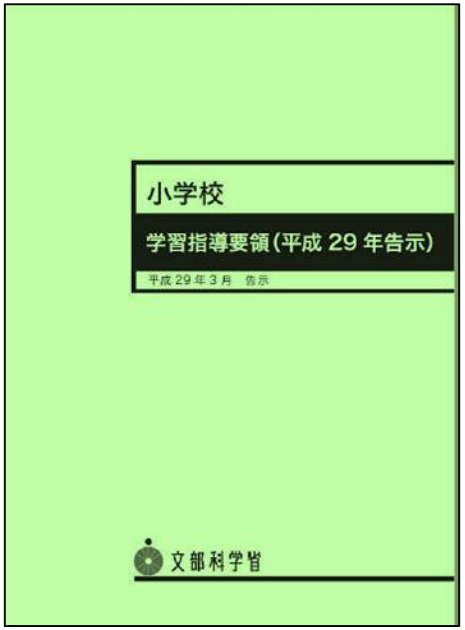
そのために

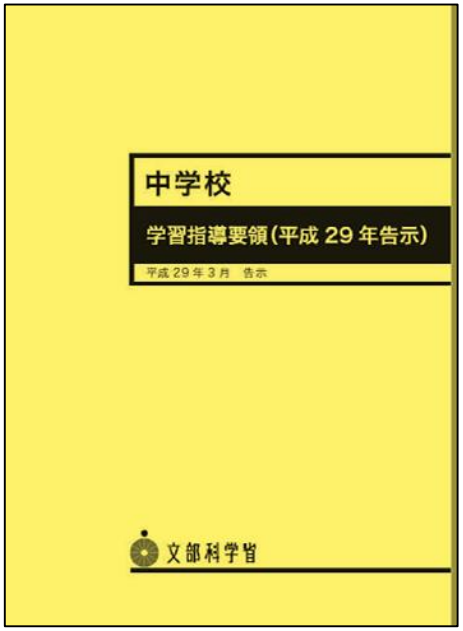
児童生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく。

【場と機会の設定】

# 日々の学校生活の改善から
# 未然防止は始まる

具体的には、**わかる授業づくり**を進める、全ての児童生徒が参加・活躍できる**授業を工夫する**、といったことから始めましょう。




小・中学校学習指導要領（平成29年告示）：文部科学省

# 第1章　総則

## 第４　児童生徒の発達の支援

### １　児童生徒の発達を支える指導の充実

児童生徒が，自己の存在感を実感しながら，よりよい人間関係を形成し，有意義で充実した学校生活を送る中で，現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう，児童理解を深め，**学習指導**と関連付けながら，**生徒指導**の充実を図ること。

※小学校、中学校それぞれの学習指導要領に「児童」「生徒」と表記してあるものを「児童生徒」としている。

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

## わかる授業づくり

**主体的・対話的で深い学び**

学習指導

新学習指導要領における各教科等のポイントを押さえた授業づくり

**自己指導能力の育成**

生徒指導

生徒指導充実のための３つの視点を生かした授業づくり

**学習環境**

学び合う集団づくり・心の居場所となる集団づくり
教室環境の整備

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

**学習指導の充実**

## 授業チェックリスト

日々の授業で大切にしたいことを、教師側からまとめています。
各校で「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返ってみましょう！

### 指導と評価の一体化のために

□児童生徒が目標を達成した具体的な姿で評価規準を設定している。

□学習過程のどの場面で、どのような方法で評価をするか明確になっている。

### 家庭学習

□基礎・基本の定着を図ったり、発展的な内容につながったりする家庭学習を用意している。

□家庭学習への意欲が継続するよう、宿題をていねいにみて、適切な評価をしている。

### 「目標(ねらい)」「めあて」

□「目標（ねらい）」と「めあて」の関わりを教師が理解し、単元（題材）や単位時間において適切に設定している。

### 「まとめ」「振り返り」

□「まとめ」と「振り返り」は一緒ではないことを理解するとともに、学んだことが次の学習につながるように工夫している。

### 発問・指示

□児童生徒が学習に対する見通しや意欲をもつことができるよう、発問や指示をしている。

### 学習形態

□児童生徒にとって必要感のある学び合いの場を設定している。（ペア、グループ、一斉、個別など）

### 教材・題材

□単元（題材）目標を達成するために、児童生徒の実態にあった教材・題材を用意している。

### 考えの表現や整理

□自分の考えを自分の言葉や図、絵などで表現したり、話合いの結果を整理したりすることができるように指導している。

### 学習環境

よい授業をするためには、学習環境を整えることが極めて重要です

●学び合う集団づくり　●教室環境の整備

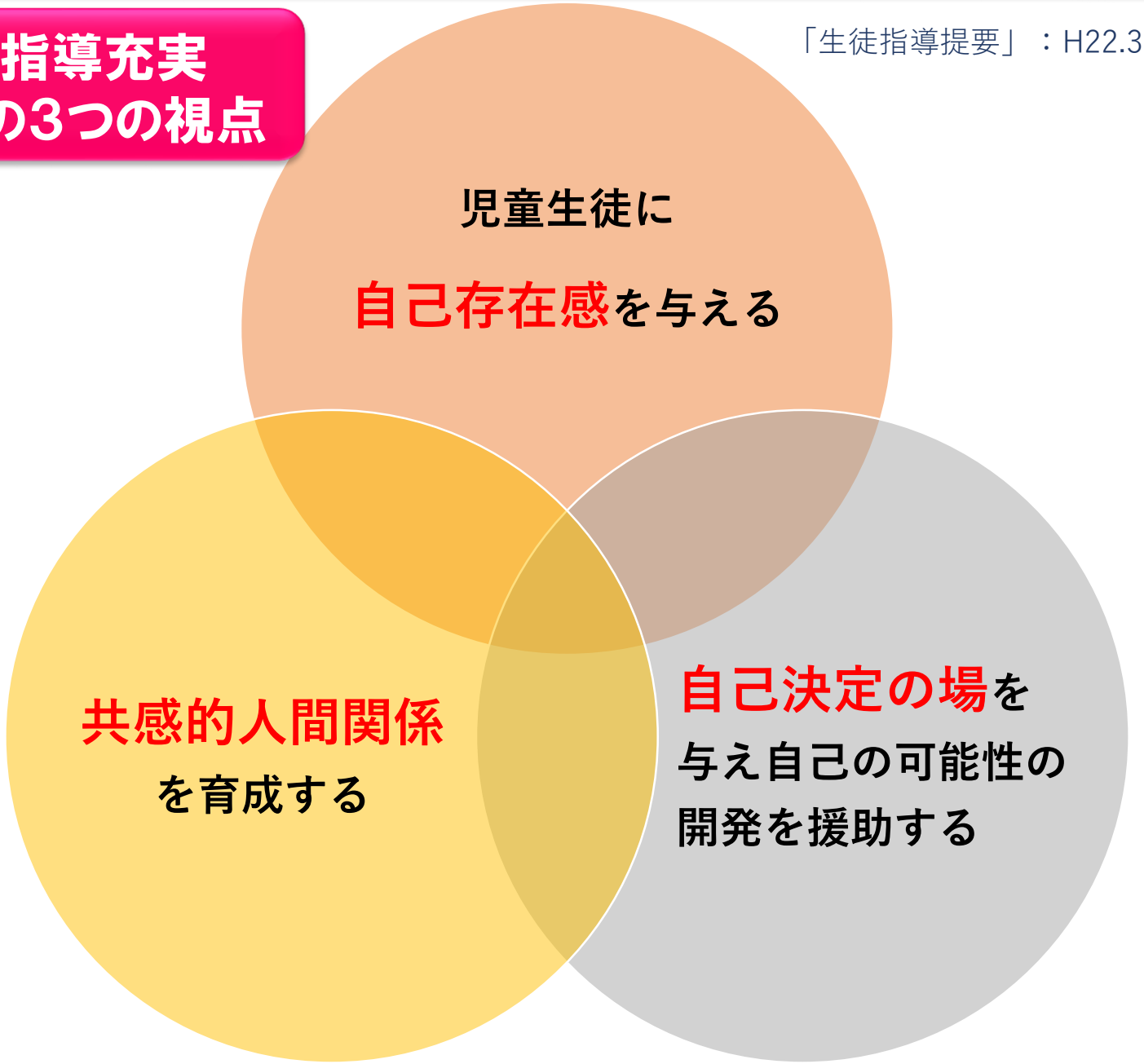
- 「目標」と「ねらい」は同義とし、「目標（ねらい）」を達成するための学習課題を、児童生徒の立場で示したものを「めあて」とします。
- 「まとめ」（本時のまとめ）は、本時の課題に対する答えや結論です。学んだ内容や方法等の整理や確認等を意味します。
- 「振り返り」は、各自（一人称）の学びの捉え直しです。単元や単位時間において、自らの学習をまとめ、次の学習につなげます。自分の学習の状況や、学びの道のりを振り返ることも大切です。

令和2年4月　島根県教育委員会

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

**生徒指導充実のための3つの視点**

「生徒指導提要」：H22.3 文部科学省



# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

**生徒指導充実のための3つの視点**

**児童生徒に**
**自己存在感を与える**

## 例えば・・・

◆授業中に児童生徒の顔を見ながら声をかけたり名前を呼んだりする。

◆一人一人のよいところを認め、積極的にほめたり励ましたりする。

◆児童生徒のつぶやきを取り上げるなどし、学習に参加している意識を高める。

◆児童生徒が誤った回答をした場合でも、全員で考える契機とするなど、発言等を大切に扱う。

◆学習活動の中に一人一人の役割があるように工夫する。発言しない児童生徒にも配慮する。

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

**生徒指導充実のための3つの視点**

**共感的人間関係**
**を育成する**

## 例えば・・・

◆教師と児童生徒、児童生徒同士がお互いのよさを認め合えるようなかかわりをする。

◆児童生徒の発言をつなぎ、集団での学び合いとなるようにする。

◆児童生徒同士が自分の考えを伝え合う場を意図的に設定する。

◆児童生徒が自分の考えを伝え合い、互いのよさや違いを認め合うことができるようにする。

◆教師・児童生徒が、お互いにうなずいたり温かい声をかけあったりするような雰囲気づくりをする。

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

**生徒指導充実のための3つの視点**

**自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する**

## 例えば・・・

◆児童生徒が自分たちで課題を設定し、追及する活動機会を設ける。

◆児童生徒一人一人が、自分の考えを持って学習に取り組むことができるようにする。

◆児童生徒が考えたり調べたりする時間を十分に確保する。

◆多様な考えを引き出すような発問を工夫する。

◆様々な学習方法の中から、児童生徒自ら選択する機会を設ける。

# 生徒指導充実のための3つの視点を生かした授業づくり

## わかる授業づくり

**主体的・対話的で深い学び**

学習指導

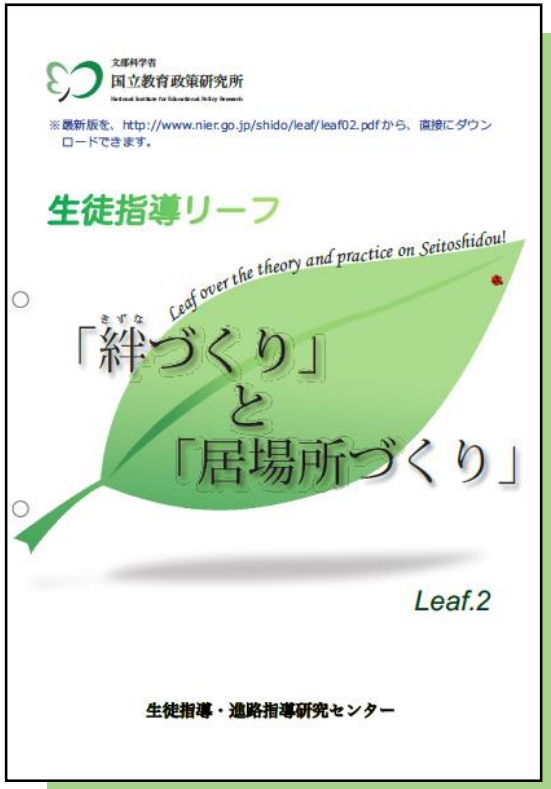
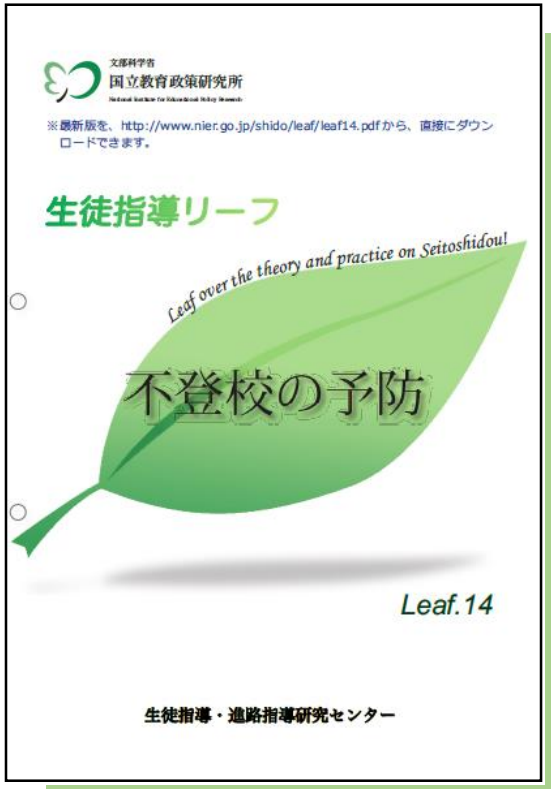
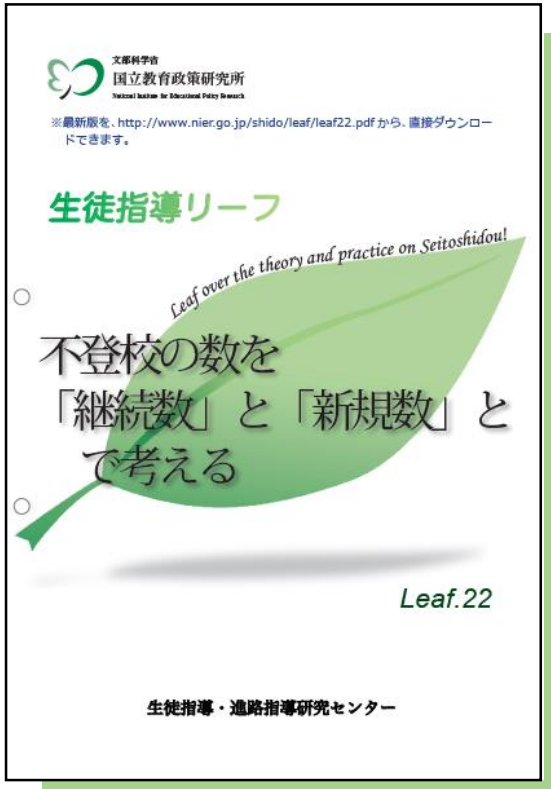
新学習指導要領における各教科等のポイントを押さえた授業づくり

**自己指導能力の育成**

生徒指導

生徒指導充実のための３つの視点を生かした授業づくり

**学習環境**

学び合う集団づくり・心の居場所となる集団づくり
教室環境の整備

# 参考資料：生徒指導リーフ（文部科学省　国立教育政策研究所）